教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 日本語日本文学科　　資格： 准教授　　氏名： 村山　太郎

研究分野	研究内容のキーワード
『源氏物語』、中古文学、国語教育、古典教育	「対話」、言説、言表主体
学位	最終学歴
博士（学術）	広島大学大学院教育学研究科文化教育開発専攻（博士課程後期）　卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.「古典との対話」（公開授業）	2012年11月	中学３年生の学習者が古典テキストの表象との付き合い方を、武士の語られ方から考えようとする単元として、教材テキスト・『平家物語』をもとに、表象を通して書き手の個に向けられた眼差しの中身を学習者に考させる授業を公開した。 また、批評会では、そうしたねらいに即した効果的な教材選定、教材開発、発問の工夫について発表した。
2.「思想としての漢文」（示範授業及講話）	2012年6月	漢文教材テキスト、「虞公の失敗」（呂不韋『呂氏春秋』「權勳」所載）をもとに、本話で語られている「虞公」の失敗の原因を高校３年生に考えさせた。 本授業は、広島大学二年生に対して示した示範授業であるが、同日に行った示範授業についての講義では、「虞公」の失敗は後代では儒経思想から意味づけられることが多いことと、その意味づけが学習者のそれとずれることとを示し、次時以降の学習の展開として人間の意味づけと思想との関わりを焦点化することを解説した。
3.「〈自分らしさ〉を考える」（示範授業及講話）	2011年6月	現代文小説教材テキスト、田口ランディ「クリスマスの仕事」をもとに、自分が何者であるか（＝自分らしさ）が気になって仕方のない、自我の確立の過渡期を生きる中学３年生である学習者に対して、自分らしくあることを以て人間らしさの要件と見なす考え方を問い掛ける本話を読ませ、考えさせる授業を行った。 本授業は、広島大学二年生に対して示した示範授業で、同日の示範授業に対する参観者の質疑応答を交えた講義では、教材分析の方法として有効な手だてを解説した。
4.「を考える」（公開授業）	2008年11月	中学２年生の学習者が「メディア」との付き合い方を「編集」という営みから考えようとする単元の実践授業の一環として、教材テキスト・『十訓抄』をもとに、表現されたものと表象産出にかかわる作り手との間で出来る出来事について学習者に考させる授業を公開した。 また、批評会では、そうしたねらいに即した効果的な教材選定、教材開発、発問の工夫について発表した。
5.「読みの構えを身につける」（示範授業及講話）	2007年11月	現代文物語教材テキスト、別役実「愛のサーカス」をもとに、中学１年生の学習者が登場人物の差し出され方という点で物語テキストの問い掛けに参入しようとする単元の実践授業として、広島大学二年生に対して示した。 また、同日の示範授業に対する参観者の質疑応答を交えた講義では、学習者の認識を顕在化させる方法やそれへの働きかけとして有効な手だてを解説した。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.高校での模擬授業等	2019年10月２日	西宮東高等学校において「文学」の模擬授業を行っ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		た。
2.高校での模擬授業等	2019年6月20日	県立播磨高等学校の生徒に〈文学〉に関する講話を行った。
3.高校での模擬授業等	2019年3月8日	伊丹北高等学校において、〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
4.高校での模擬授業等	2018年10月3日	兵庫県立柏原高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
5.高校での模擬授業等	2018年9月5日	大阪市立咲くやこの花高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
6.高校での模擬授業等	2018年5月10日	大阪府立高石高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
7.高校での模擬授業等	2017年11月16日	大阪国際滝井高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
8.高校での模擬授業等	2017年7月13日	明石南高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
9.高校での模擬授業等	2017年6月22日	大阪府立布施高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
10.高校での模擬授業等	2016年12月15日	宝塚西高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
11.高校での模擬授業等	2016年10月27日	宝塚北高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
12.高校での模擬授業等	2016年7月14日	舞子高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
13.高校での模擬授業等	2015年10月	宝塚北高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
14.特別学期科目「観察実習」	2015年2月～現在	国語科教職課程履修者が附属中高での授業の様子を観察し、講話を聞き、振り返りを行うことで、履修生自身の教育実習への準備を促そうと企図して、本学附属中高国語科に協力を仰ぎ開講した。例年特別学期期間に１～２日間開講している。
15.高校での模擬授業等	2014年10月2日	香川中央高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
16.高校での模擬授業等	2014年7月15日	加古川西高等学校において〈文学〉に関する模擬授業及び講話を行った。
17.教員採用試験対策講座（古文・漢文）	2014年4月～現在	希望者に対して教員採用試験（古文・漢文）に関する全体/個別指導を行う。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.高等学校教諭専修免許状（教科国語）	2003年3月25日	
2.中学校教諭専修免許状（教科国語）	2003年3月25日	
3.高等学校教諭１種免許状（教科国語）	2001年3月25日	
4.中学校教諭１種免許状（教科国語）	2001年3月25日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.学科教務委員	2024年4月1日～現在	
2.学校教育センター委員（常任）	2022年4月1日2024年3月31日	
3.学院親睦会委員	2020年4月1日2022年3月31日	
4.入試・広報委員	2018年4月～現在	
5.『源氏物語』からの呼びかけ	2016年10月17日	一般社団法人神戸新聞文化センター（三宮KCC）主催『暮らしいきいき講座』
6.キャリア対策委員	2016年4月～2018年3月	
7.『源氏物語』と王朝物語	2015年10月19日	一般社団法人神戸新聞文化センター（三宮KCC）主催『さわやか大学』（第27期）
8.学生委員	2014年4月～2016年3月	

研究業績等に関する事項

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.『源氏物語』研究―『源氏物語』テキストの「対話」性の分析とその教材化―	単	2006年3月	【学位請求論文】 広島大学大学院博士論文 広島大学 2006年3月23日「博士（学術）」取得	「テキストの対話性」原理（バフチン）に即して『源氏物語』テキストを分析し、その表現性を明らかにするとともに、そうしたテキスト観からする古典教育の在り方を、『源氏物語』テキストを中心にして提案した。
2.『源氏物語』論―テクストの「対話」分析とその教材化	単	2003年3月	【学位請求論文】 広島大学大学院修士論文 広島大学 2003年3月23日「修士（学術）」取得	「テキストの対話性」（ミハイル・バフチン）理論に即して、『源氏物語』テキストの表現性を検討した。 特に、王朝物語諸テキストに見られる典型的な男主人公（＝「色好み」）について取り上げ、『源氏物語』がそれらとの「対話」を通じて読者に様々な話題を批判的に差し出している有り様を明らかにした。
3 学術論文				
1.物語と関わりながら生きることへの『源氏物語』テキストの思索（査読付き）	単	2021年3月31日	武庫川女子大学学校教育センター『学校教育センター紀要』第５号（投稿中）	『源氏物語』テキストには、零落の佳女幻想と密接に関わる二人の姫君が登場する。一方が笑われ、もう一方が称揚されるのは、零落の佳女幻想に対する関わり方が異なるためである。この異なりは『源氏物語』テキストの思索を見通す手がかりになるものである。本稿は、その手がかりから、零落の佳女幻想との関わり方についての、『源氏物語』テキストの思索の内実を明らかにし、その思索に学習者が参入する古文学習に向けて、教材化の要所を得ようとするものである。
2.古文学習と「言語文化の継承」―『源氏物語』テキストの夕霧批評	共	2020年11月1日	武庫川女子大学国文学会『武庫川国文』第八十九号	本稿は、新学習指導要領の問題点を踏まえた、古文学習の授業実践報告と考察及び展開を議論するものである。授業単元のテーマは、『源氏物語』に描かれる夕霧の、価値観・世界観とのつきあい方を問題化するというもので、教材は、落葉宮への想いを深める夕霧が、長年連れ添った雲居雁とドタバタの家庭争議を繰り広げるという展開を六時間（50分授業６回分）程度で押さえられるように場面を選び、口語訳のついた原文と原文の前後を補う梗概、若干の注を配しプリントにしたものである。本稿はこの単元学習を取り上げて、新学習指導要領の動向をにらみつつその成果と課題を明らかにするものである。論旨中、授業単元の構想（第一節・第二節）、新学習指導要領及びそれを踏まえた古文学習の動向の検討（第四節・第五節）、授業実践の課題と展開（第六節・第七節）部分を執筆した。執筆者記載順：*村山太郎*、宅見朋子
3.世界観・価値観とのつきあい方を問題化する『源氏物語』教材の開発に向けて ：夕霧と雲居雁夫婦の語られ方を通して（査読付き）	単	2020年3月21日	武庫川女子大学学校教育センター『学校教育センター紀要』第５号 pp.1-14	2018年に新『高等学校学習指導要領』が公示された。実施は2022年４月１日以降入学の高校１年生からで年次進行である（一部は移行措置として2019年度より先行実施）。本稿は、この改訂に伴って高等学校国語科に課せられた新たな目標を踏まえ、その目標に応えられる古文学習を提言するものである。
4.古文教材と学習者の今を取り結ぶ「通路」	単	2020年3月18日	武庫川女子大学大学院文学研究科『日本語日本文学論叢』第十五号 pp.53-69	『源氏物語』テキストの表現性を、当時広く見られた「色好み」の世界観・価値観との関わり方に見通し、光源氏と夕顔をめぐる話題を取り上げ分析した。この考察を通して、本話題の古文学習教材の可能性に言及する。
5.テキストの「批評」との出会いの場としての古文学習	単	2018年2月20日	武庫川女子大学大学院文学研究科『日本語日本文学論叢』第十三号 pp.53-76	『伊勢物語』「筒井筒」話題の古文学習での扱われ方の問題点を明らかにし、古文テキストの「批評」の様相を学習者が批評する古文学習を提案した。
6.「国語の授業」の中の出来事	単	2016年2月26日	武庫川女子大学大学院文学研究科『日本語日本文学論叢』第十一号	稿者の担当する教職課程科目「国語科指導法Ⅱ」（平成26年度後期実施）の実践報告である。本論では、模擬授業を体験した受講者がどのような〈国語の授業〉観を獲得し、その授業観にいかなる問題が存するのかを明らかにした。また、その解決案を提案した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
7.古文学習のアポリアの向こう側―『平家物語』テキストと学習者との出会い―	単	2013年3月	pp.15-31 『中等教育研究紀要第』53巻広島大学附属福山中・高等学校pp.125-130	学習者は、古典テキストを読解する際に自分の感じ方やいかにも古文らしい展開などを外から持ち込んで読もうとする。 無論それは、当の古典テキストとは異なるものである。こうした古文学習の課題に応答する授業実践を、『平家物語』テキストにおける平清盛の語られ方を単元化し行った。本稿はその授業実践報告である。
8.これからの教育実習―国語科における観察実習の研究（３）―	共	2013年3月	『学部・附属学校共同研究紀要』第41号広島大学学部・附属学校共同研究機構pp.39-45	示範授業の観察をし、示範授業者の講話を受け、多くの観察実習生は自己の授業観の問い直しをする。しかしながら、一方で問い直しには限界があり、その限界は多くの実習生にとって共有されてもいた。 分析を通じて、同じ限界を抱える実習生の特徴として、物語内容の作られ方（語られ方・描かれ方）やテキスト相互の関係に着目しないことが明らかになった。本論では主著者として以上のような実習生の課題を析出し、その解決策を提言した。執筆担当責任者として全ての箇所の執筆に関わった。執筆者：金子 直樹 ， 江口 修司 ， 金尾 茂樹 ， 石井 希代子 ， 重永 和馬 ， 川中 裕美子 ， *村山 太郎* ， 井上 泰 ， 竹盛 浩二 ， 竹村 信治 ， 川口 隆行 ， 小西 いずみ ， 佐藤 大志 ， 間瀬 茂夫 ， 佐々木 勇 ， 山元 隆春 ， 田中 宏幸
9.これからの教育実習―国語科における観察実習の研究（２）―	共	2012年3月	『学部・附属学校共同研究紀要』第40号広島大学学部・附属学校共同研究機構pp.65-70	多くの観察実習生にとって国語の授業とは、学習者が教材テキストの主張や考え方をまず知ること。そして、教材テキストの主張や考え方に自己同定し、それを再表象するようになる営みのことである。主著者として、こうした授業観とその眼差しの限界を分析し、観察実習での教員側からする有効な働きかけを提案した。抱える課題を析出した。執筆担当責任者として全ての箇所の執筆に関わった。執筆者：金子 直樹 ， 江口 修司 ， 金尾 茂樹 ， 石井 希代子 ， 重永 和馬 ， 川中 裕美子 ， *村山 太郎* ， 井上 泰 ， 竹盛 浩二 ， 竹村 信治 ， 川口 隆行 ， 小西 いずみ ， 佐藤 大志 ， 間瀬 茂夫 ， 佐々木 勇 ， 山元 隆春 ， 田中 宏幸
10.学習者とテキストとの出会い	単	2011年3月	『中等教育研究紀要』第51巻広島大学附属福山中・高等学校pp213-218	中学1年生での〈読み〉の問題点を明らかにし、その課題を解決する国語科授業実践報告をした。その問題点とは、テキストを読むことは、学習者自身の依って立つ価値観に即して我有することであった。そうした課題を見据えて、学習者の手持ちの価値観では領有し得ない物語教材（別役実「愛のサーカス」）を扱うことで、学習者既有の価値観を揺さぶり更新した。
11.これからの教育実習―国語科における観察実習の研究（１）―	共	2011年3月	『学部・附属学校共同研究紀要』第39号広島大学学部・附属学校共同研究機構pp.27-32	教育実習は、大学2年生時の観察実習を経て3、4年での教壇実習を迎える。観察実習生はどのように国語科授業を意味づけているのであろうか。そうした課題を設定し、観察実習生の抱える課題を析出した。 言語テキストは、書き手が特定の立ち位置に立って世界を眺め、その世界との不断の議論を経て書き付けられつつあるものである。 従って、そうした言語テキストを扱う国語の授業者は、議論の足跡としてある叙述に即してその世界観と学習者が出会える工夫を凝らさなくてはならない。観察実習生がそうした工夫を思慮しなくなるという課題の観察実習での具体的な現れ方を本稿は論じ、主著者として観察実習生による諸記録の分析を通して明らかにした。執筆担当責任者として全ての箇所の執筆に関わった。執筆者：金子 直樹 ， 江口 修司 ， 金尾 茂樹 ， 石井 希代子 ， 重永 和馬 ， 川中 裕美子 ， *村山 太郎* ， 井上 泰 ， 竹盛 浩二 ， 竹村 信治 ， 川口 隆行 ， 小西 いずみ ， 佐藤 大志 ， 間瀬 茂夫 ， 佐々木 勇 ， 山元 隆春 ， 田中 宏幸
12.これからの教育実習―国語科における教育実習指導の研究（5）「授業力獲得モデル（一般・単元別）の策定（Ⅲ）」―	共	2010年3月	『学部・附属学校共同研究紀要』第38号広島大学学部・附属学校共同研究機構pp.33-40	教育実習における、実習生の課題とそれへの有効な働きかけを、古典テキストを教材とした実習生の諸記録から主著者として分析考察し論じたものである。行論中、実習生の課題を、「古典文学テキストを何らかの本質が記してある〈教訓〉書と捉える点にある」ことを明らかにし、古典文学テキストを〈思索し書き付けられつつある〉書と捉えることで学習活動を構想する働きかけの有効性について考察した。執筆担当責任者として全ての箇所の執筆に関わった。執筆者：金子 直樹 ， 江口 修司 ， 金尾 茂樹 ， 石井 希代子 ， 重

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				永 和馬 ， 川中 裕美子 ， *村山 太郎* ， 井上 泰 ， 竹盛 浩二 ， 竹村 信治 ， 川口 隆行 ， 小西 いずみ ， 佐藤 大志 ， 間瀬 茂夫 ， 佐々木 勇 ， 山元 隆春
13.〈自分らしさ〉を迫る時代の国語の学習	単	2008年3月	『国語教育研究』第49号広島大学国語教育学会pp.107-116	学校図書『中学校　国語２』に新たに採録された小説教材、田口ランディ著「クリスマスの仕事」を例に、教材と学習者との「対話」を成立させるためには、テキストの問い掛けを明らかにし、その問いかけと学習者の接点を確認しつつ、問いかけへの応答を促して行くことの重要さを指摘した。あわせて、「対話」を成立させるための効果的な観点を提示し、その観点に基づいた実際の単元例を報告した。
14.『源氏物語』論―『源氏物語』と〈女〉言説との「対話」―	単	2006年3月	『国語教育研究』第47号広島大学国語教育学会pp.23-35	王朝物語諸テキストに見られる典型的な男主人公（＝「色好み」）とそれにかかわる女性の語られ方を分析し、『源氏物語』テキストが、そうした「色好み」と結ばれることで苦悩する女主人公・紫上をこそ語っている点に注目し、そこに既成言説と「対話」する『源氏物語』テキストの表現の特徴を明らかにした。
15.『源氏物語』論―〈産む性〉と『源氏物語』テキストの「対話」（査読付）	単	2005年6月	『国文学攷』第168号広島大学国語国文学pp.17-27	姫君の「出産」を語る諸先行テキストと『源氏物語』テキストの関係を考察した。姫君を〈産む性〉と意味づけ語る中古文学テキストは、官職の世襲化により家格が強化された平安中期以降顕著になるが、そうした言語状況にあって、『源氏物語』テキストが葵上出産や紫上臨終の叙述を通して〈産む性〉という女性の存在性を問いかけるものであったことを明らかにした。
16.『源氏物語』論―勤学貴族の語られ方	単	2005年3月	『広島大学教育学部紀要』第二部第54号広島大学教育学部pp.425-432	「良吏」夕霧は、一方では「良吏」としての生き方に違和の情を抱き、長じては権勢家として自家の栄華を他家に誇ったりする。そうした夕霧の語られ方の分析を通して、儒教思想（＝〈儒教〉言説）と「対話」する『源氏物語』テキストの表現性を考察した。
17.『源氏物語』論―テキストとの向き合い方を問題化する古典学習―	単	2005年3月	『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第51巻中国四国教育学会pp.452-457	自己の古典観や人間観による所有の域にとどまる古典入門期、中学3年生の古典学習について、言説論的視座からする教材開発や授業実践が、学習者にとってテキストの表現を引き受け思考する契機となることを明らかにすることを通じて、言説論的視座からする古典学習の有効性を明らかにした。
18.『源氏物語』論―“まなざし”の継承と展開	単	2004年3月	『広島大学教育学部紀要』第二部第53号広島大学教育学部pp.463-470	『源氏物語』テキストの作中人物・紫上を観察の観点として、『源氏物語』テキストと後代の王朝物語との関係を検討した。その結果、色好み本位の男女関係で苦悩を抱えて生きる女主人公の描出という点で『源氏物語』の系譜が確認できたが、他方でそうした姫君の姿を情趣深く美しいものと位置づけ展開させようとするテキストも存し、後代王朝物語諸テキストの多様な『源氏物語』享受の有り様が明らかになった。
19.『源氏物語』論―テキストの「まなざし」を軸とした教材化―	単	2004年3月	『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第50巻中国四国教育学会pp.332-337	『源氏物語』テキストの描出した「女の生きがたさ」に対する、後代王朝物テキストの受け取り方を検討し、その受け取り方が顕在化する場面を取り上げ整理して、これに基づく単元の構成と教材化を試みた。あわせて、テキストの認識を主題化した古典教育の在り方を提案した。
20.『源氏物語』論―テクストの「対話」分析とその教材化（査読付）	単	2003年3月	『教育学研究科修士論文抄』広島大学教育学研究科pp.133-134	修士論文（「テキストの対話性」（ミハイル・バフチン）理論に即して、『源氏物語』テキストの表現性を検討した。特に、王朝物語諸テキストに見られる典型的な男主人公（＝「色好み」）について取り上げ、『源氏物語』がそれらとの「対話」を通じて読者に様々な話題を批判的に差し出している有り様を明らかにした）の要旨。
21.『源氏物語』論―〈女〉言説との「対話」―	単	2003年3月	『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第49巻中国四国教育学会pp.519-524	古典テキストに散見される「待つ女」という素材に着目し、「待つ女」を良きものと眺める認識に対して、『源氏物語』テキストが問いかけ、反駁する具体的な叙述をとりあげ、そうしたテキストの「対話」に参入する古典学習について提案した。
22.『源氏物語』論―〈色好み〉言説、テキストの「対話」、問題領域―	単	2002年3月	『教育学研究紀要』第48巻　第二部、中国四国教育学会pp.54-59	王朝物語における女性認識の典型として『落窪物語』や『住吉物語』に顕著な物語の型（＝継子譚）を措定して、その話型と重なる女主人公「紫上」の語られ方を明らかにし、継子譚との重なりの顕著な紫上の生涯が幸福なものとして描出されない点において、『源氏物語』テキストの表現性の特徴を指摘するとともに、同時代の女性認識に対する『源氏物語』テキストの異議申し立ての諸相を明らかにした。
その他				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.言説とテキストとの関わりを問題化する古典学習－『竹取物語』テキストの言述	単	2010年11月	第52回全国国立大学附属学校連盟高等学校部会教育研究大会、〈国語科〉分科会、広島大学附属福山中・高等学校	言説に着目した『竹取物語』テキストの分析を通して、テキストのメッセージを明らかにし、そのメッセージを受け取り考えるに相応しい場面を明らかにし、中学1年生の古文学習を提案した。
2.『クリスマスの仕事』（学校図書）の表現性と問い掛けの共有」	単	2007年8月	第48回広島大学国語教育会、研究協議、広島大学	学校図書『中学校　国語２』に新たに採録された小説教材、田口ランディ著「クリスマスの仕事」を例に、教材と学習者との「対話」を成立させるためには、テキストの問い掛けを明らかにし、その問いかけと学習者の接点を確認しつつ、問いかけへの応答を促して行くことの重要さを指摘した。あわせて、「対話」を成立させるための効果的な観点を提示し、その観点に基づいた実際の単元例を報告した。
3.『源氏物語』論―テキストとの向き合い方を問題化する古典学習―	単	2005年11月	第57回中国四国教育学会、安田女子大学	自己の古典観や人間観による所有の域にとどまる古典入門期、中学3年生の古典学習について、言説論的視座からする教材開発や授業実践が、学習者にとってテキストの表現を引き受け思考する契機となることを明らかにすることを通じて、言説論的視座からする古典学習の有効性を明らかにした。
4.『源氏物語』論―テキストの「まなざし」を軸とした教材化―	単	2004年11月	第56回中国四国教育学会、鳴門教育大学	『源氏物語』テキストの描出した「女の生きがたさ」に対する、後代王朝物テキストの受け取り方を検討し、その受け取り方が顕在化する場面を取り上げ整理して、これに基づく単元の構成と教材化を試みた。あわせて、テキストの認識を主題化した古典教育の在り方を提案した。
5.『源氏物語』論―〈産む性〉と『源氏物語』テキストの「対話」	単	2004年6月	平成16年度広島大学国語国文学会春季研究集会、広島大学	姫君の「出産」を語る諸先行テキストと『源氏物語』テキストの関係を考察した。姫君を〈産む性〉と意味づけ語る中古文学テキストは、官職の世襲化により家格が強化された平安中期以降顕著になるが、そうした言語状況にあって、『源氏物語』テキストが葵上出産や紫上臨終の叙述を通して〈産む性〉という女性の存在性を問いかけるものであったことを明らかにした。
6.『源氏物語』論―〈女〉言説との「対話」―	単	2003年11月	第55回中国四国教育学会、広島大学	古典テキストに散見される「待つ女」という素材に着目し、「待つ女」を良きものと眺める認識に対して、『源氏物語』テキストが問いかけ、反駁する具体的な叙述をとりあげ、そうしたテキストの「対話」に参入する古典学習について提案した。
7.『源氏物語』論―『源氏物語』と〈女〉言説との「対話」―	単	2003年8月	第44回広島大学国語教育学会、広島大学	王朝物語諸テキストに見られる典型的な男主人公（＝「色好み」）とそれにかかわる女性の語られ方を分析し、『源氏物語』テキストが、そうした「色好み」と結ばれることで苦悩する女主人公・紫上をこそ語っている点に注目し、そこに既成言説と「対話」する『源氏物語』テキストの表現の特徴を明らかにした。
8.『源氏物語』論―〈色好み〉言説、テキストの「対話」、問題領域―	単	2002年11月	第54回中国四国教育学会、高知大学	王朝物語における女性認識の典型として『落窪物語』や『住吉物語』に顕著な物語の型（＝継子譚）を措定して、その話型と重なる女主人公「紫上」の語られ方を明らかにし、継子譚との重なりの顕著な紫上の生涯が幸福なものとして描出されない点において、『源氏物語』テキストの表現性の特徴を指摘するとともに、同時代の女性認識に対する『源氏物語』テキストの異議申し立ての諸相を明らかにした。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.「夕霧と雲居雁夫妻」授業実践報告と新学習指導要領での古典の学習	共	2020年8月29日	古文学習を考える勉強会	高等学校では令和四（2022）年度から年次進行で新学習指導要領（平成三〇（2018）年三月告示）が実施される。これを踏まえた授業実践を、実際の授業の様子を踏まえて現職の国語教員に発表し、質疑応答を行った。
2.これからの教育実習―国語科における教	共	2014年11月刊行	広島大学附属福山中・高等学校国語	広島大学附属福山中高等学校国語科では、2005年度～2012年度にかけて、「より優れた中等教育授業者を育成する国語科教育実習のあり

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
育実習指導の研究（2005～2012）			科［発行］	方を求めて、実習現場で生起する出来事を記述し、その分析・考察を通じて」、「中等国語科教育実習指導体制の構築にむけた課題を析出すること」を目的として研究し、分析・考察・諸課題を集積・発表してきた。本書は、その蓄積をまとめ、本研究の成果を明らかにするもので、これの編集・執筆責任者として関わった。
６．研究費の取得状況				
1.平成二十九年度科学研究費助成事業（基盤研究（Ｃ）：17K04829）採択「改良学校国文法を用いた授業実践による中学生の論理的思考力と伝え合う力の涵養」	共	2017年4月1日～	日本機能言語学会　他：文部科学省平成二十九年度科学研究費助成事業	学校教育における口語（橋本）文法の問題点を明らかにし、改良案を案出する。また、改良案を実際に授業で実施し、その利点と課題を考察し、以て広く文法学習への提言を致す。このテーマに研究分担者として参与し、主に授業化や授業の振り返りなどを担当する。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	広島大学国語教育会